

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	運動発達支援スタジオ笑みりい～南花田		
○保護者評価実施期間	令和6年8月19日		～ 令和6年9月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	51名	(回答者数) 37名
○従業者評価実施期間	令和6年9月1日		～ 令和6年9月14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年10月30日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	活動のプログラムが固定化しないように空き時間を利用して子どものニーズや保護者様のニーズを話し合い、支援にいかせているところ。	感覚統合をベースとした運動プログラムではお子様の特性や性格などにも配慮し、チーム分けをして、子供同士で意見を出し合ったり、協力できるようにプログラムの組み立てをしています。できたことを褒めて伸ばし、お子様の自信につながるようにしています。	より専門的な支援ができるように、研修会を企画したり参加するように努め、職員全員で共有していきます。
2	朝礼でその日に来所する子どもについて話し合ったり、終礼ではその日の子供の様子を振り返り、次に通所する時に対応できるようにしている。	自由時間は子どもたちが楽しく、発散できるような遊びを考え、職員やお友達とコミュニケーションをとれるように工夫しています。また、お子様に合わせた内容のプログラムを提供する時間を設けています。利用児の課題や強みに合わせてその都度変えながらすすめています。また、利用日の様子を保護者様に丁寧に伝えるようにしています。	事業所内で支援会議やケース会議を充実させたいき、他事業所との連携をしています。
3	顧問であるPTやSTと連携し、在籍する専門職と意見を交わし、本人や保護者様のニーズに寄り添った支援を提供できるようにしています。	専門職会議を定期的開催し、各店舗の保護者から相談を受けたことに対してどのように支援していくか話し合う機会を設けている。	専門職会議の内容を全店舗で共有し日々の支援が充実するようにしていきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	お子様の安全確保に対して、保護者様への周知が十分でないこと。	避難訓練の周知はできていますが、実際に災害が起きた場合の送迎の確認や利用時に災害が起きた場合の避難所を保護者様に周知できていない。	できるだけ早く、お手紙を準備し配布する。
2	研修に参加する機会がなかなかとれない。	事業所全体で研修の機会を作っているが、外部の研修へは一部の職員しか受ける機会がなかなかとれない。	外部の研修に職員が積極的に参加できるように職員の体制を調整していく。
3	地域やの子どもたちとの活動をする機会が持ちにくい。	プログラムの時間が決まっていて調整が難しい。	地域の子どもやきょうだい児も一緒に参加できるようなイベントを考えていきます。